

きれいな
華麗なハエ-ハナアブ-

ハナアブ類はハエの仲間で、その名のとおり花の上で見ることの多い昆虫です。

日本では 500 種以上いると言われ、富山県からは今のところ 120 種ほどの記録がありますが、よく似た種類が多く、まだ充分には研究が進んでいません。

ハナアブ類は、アブと名が付いていますが、刺すアブの仲間ではなく、成虫は、花の上で花粉や花蜜を食べて生活する人には害のない昆虫で、ミツバチの仲間と同様に、花粉を媒介するものとして重要な働きをしています。特に、春先早くや秋の終わってから冬の初めのハチ類の活動が少ない時に咲く花や、高山のようにハチ類の多くない場所に咲く花にとってはたいへん重要な昆虫です。

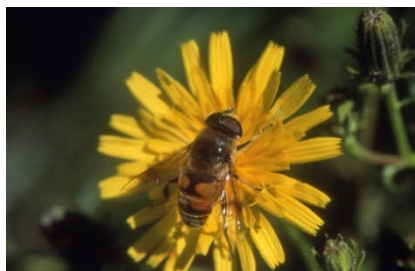
また、ハナアブ類の幼虫のなかには、植物の害虫であるアブラムシを食べ、天敵として重要な働きをしている種類もあります。

ハナアブ類の幼虫の生活は実に多様で、アブラムシを食べるもの（ヒラタアブ類）の他にも、水中生活をするもの（ナミハナアブ・シマハナアブ類）から、植物を食べるもの（マドヒラタアブ類）、また、スズメバチ類の巣内（ベッコウハナアブ類）やアリの巣内（アリノスアブ類）で生活するものなどがいます。

成虫の姿・形は、平地～山地まで最も普通に見られるナミハナアブやホソヒラタアブのように、ハチの仲間に姿を似せて、細長い体に黄色と黒の縞模様のあるものが多いのですが、クロハナアブ類のようにツヤのある真っ黒なものや、オオハナアブのようにマルハナバチに似て丸っこい体つきでオレンジ色や黄色の太い縞模様や水色の縞模様があるものなど様々な色・形をしています。また、体長 5 mm ほどの小さなものから 25mm ほどもある大きなものまで大きさも多様で、花の上で、ハエの仲間のイメージとは異なる目立つ色彩で活動しています。

ハナアブ類とハチの仲間とを見分けるには、ハネと触角を見ましょう。ハネが左右一枚ずつ計二枚ならばハナアブ類で、左右二枚ずつ計四枚ならばハチの仲間です。長い触角があればハチ類で、触角がごく小さければハナアブ類です。

花の上にブーンと大きな羽音をさせて虫が飛んでくると、つい「ハチ」と思いがちですが、あわてずに確認してみましょう。（根来 尚）



ナミハナアブ
 (コウゾリナの花の上)



ホソヒラタアブ
 (ビワの花の上)



オオハナアブ
 (ビワの花の上)



クロハナアブ類
 (オオハナウドの花の上)